

「携帯端末向けマルチメディア放送サービス等の在り方  
に関する懇談会」における  
検討課題について

---

2007年11月12日  
日本放送協会

# 携帯端末向け放送の基盤整備に向けて(1)～制度整備～

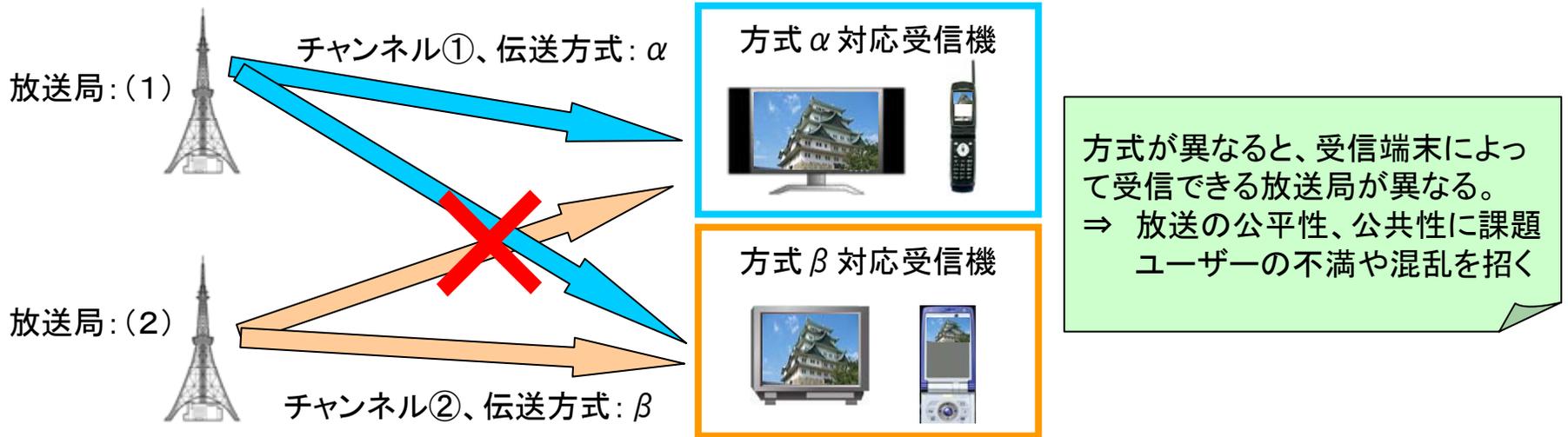
- 放送は、誰でも安価で簡便に、責任ある編集主体によって編集された信頼できる情報入手できる手段
- 人々の日常生活に必要な情報を総合的に提供することにより、基幹的なメディアとして定着し、人々の生活の向上、民主主義の発展に貢献
- いわゆるユビキタス社会においては、こうした放送の役割が移動体・携帯端末向けの放送でも確保され、移動中を含め、人々の生活により密着したメディアとしてさらに普及、発展することを期待
- その中で、デジタル技術を活用しつつ、非常災害時におけるきめ細かい地域情報の提供を含め、上記のような社会的役割を担う放送がより多く実現する制度的環境が整備されることを期待

## 携帯端末向け放送の基盤整備に向けて(2)～放送方式～

- 携帯端末向け放送が最大限に普及して、その社会的役割を効果的に果たすためには、利用者の立場からは、一つの受信端末を購入することにより、より多くの情報・サービスの選択肢を得られることが望ましい。
- 他方、放送事業者の立場からは、一つの放送方式で放送することによりすべての受信端末にサービスを提供できることが望ましく、このことは周波数の有効利用にもつながる。
- このため、VHF帯の限られた放送用帯域を利用する放送の技術方式は、一つの標準方式に統一されることが望ましい。
- なお、標準方式として採用される方式は、より多くの事業者が独立した編集権を保持しつつ参入できることを含め、多様な事業形態が可能となるものが望ましい。

# (参考1): 放送方式の統一化の必要性

～周波数の有効利用、端末コストの低廉化のために方式の統一化が必要～



## 放送局側の対応策



方式  $\alpha$   
対応受信機

方式  $\beta$   
対応受信機

同一番組を、複数のチャンネルで、複数の方式で放送  
 ⇒ 周波数の有効利用にならない。送信経費がかさむ

## 受信端末側の対応策



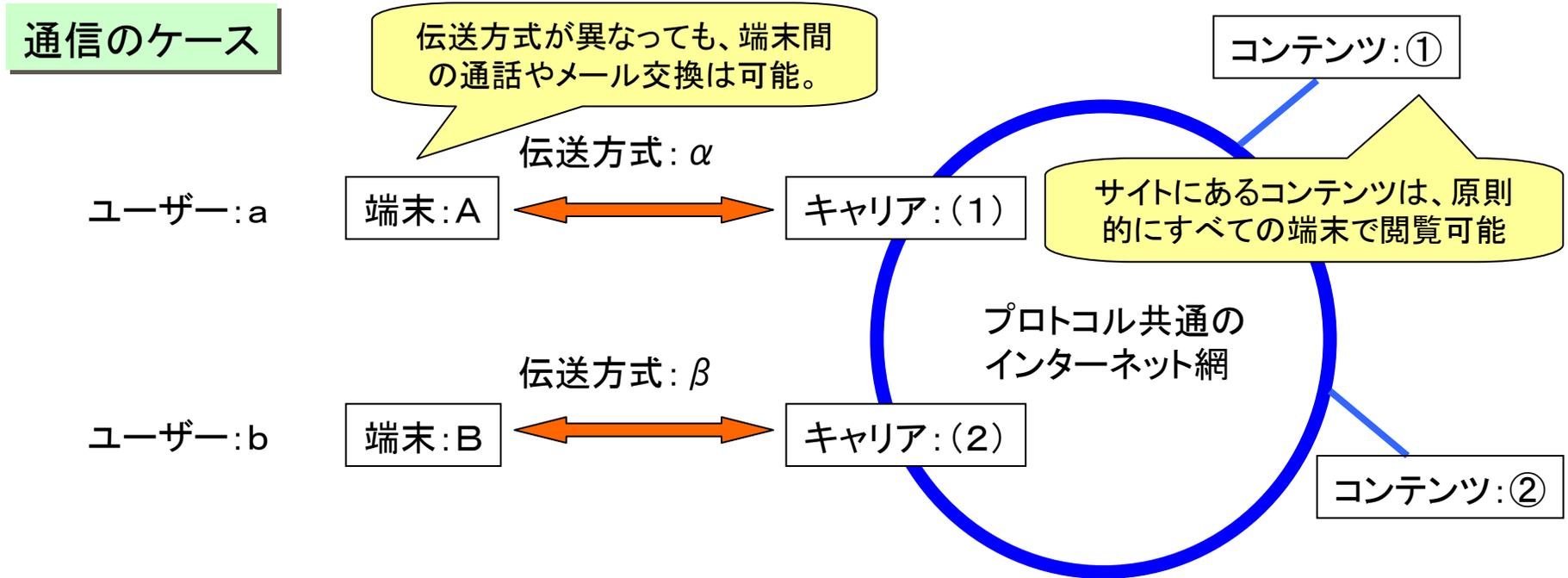
方式  $\alpha$ 、 $\beta$   
対応受信機



複数の方式をサポート  
 ⇒ 受信機コストの上昇は避けられない

## (参考2) 放送方式の統一化の必要性

～ 通信の場合は、伝送方式が異なっても問題が生じない ～



- 端末内で、あるいはキャリアでの方式変換を含め
  - ・ 通信プロトコル
  - ・ 閲覧ソフト(ブラウザ)

の共通化を図ることで、1:1通信が基本サービスであることから、

**伝送方式がキャリアごとに異なってもユーザーにとってデメリットは生じない。**